

《担当者名》○塚本 容子 [yokot88@hoku-iryu-u.ac.jp] 守田 玲菜 [r-mori@hoku-iryu-u.ac.jp]
 小林 道也(薬) [platypus@hoku-iryu-u.ac.jp] 高橋 伸彦(歯) [ntkhs@hoku-iryu-u.ac.jp]
 石角 鈴華 [ishizumi-re@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

薬物力学・薬物動態学などの基礎薬理学の知識を押さえて、臨床現場で多く遭遇する疾患及び救急時の薬物療法について学習する。患者の生物学的背景、生活文化、疾病状況を鑑みて、薬物の効用と副作用のバランスを考慮しながら、患者の QOL 向上に寄与する薬物療法を導き出し、その効果を評価できる能力を身に付けるために、ケーススタディを中心に、服薬指導・管理について検討し、アドヒアランスを向上できる取り組みを検討する。

【学修目標】

- 1) 薬物療法における高度実践看護師としての役割を理解できる
- 2) 薬剤アドヒアランスの概念枠組み、促進要因と阻害要因について説明できる
- 3) 薬理学の基礎を理解できる
- 4) 各分野の薬物療法を、生理学を押さえながらその作用について説明できる
- 5) 薬物療法における効果判定、副作用について理解できる
- 6) 事例を通じて、患者の年齢及び生活背景を考慮した、最適な薬物療法の選択について検討することができる
- 7) 事例を通じて、患者の服薬指導・管理について、ツールを用いながら検討することができる
- 8) 事例を通じて、患者の背景を考慮した、アドヒアランス向上のための方策を検討することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	臨床現場における薬物療法と高度実践看護師の役割	【講義】 ・薬物療法における高度実践看護師の役割について ・薬剤アドヒアランスの概念枠組み、促進要因と阻害要因 ・薬物療法における患者教育、服薬指導・管理の現在の課題と解決のためのツール	塚本
2	薬理学総論 薬物動態（PK）と治療的薬物モニタリング（TDM）	【講義】 ・臨床現場で遭遇する疾患（common diseases）とは何か、またそれらに対する薬物療法の原則についての概要 ・薬物の作用機序と吸収、分布、排泄、薬物の併用効果と相互作用	小林（道）
3	薬理学総論 年齢を配慮した薬物療法 薬物療法に関する法律	【講義】 ・年齢を配慮した、特に高齢者に対する薬物療法において、薬物動態・薬物力学を配慮した投与後のモニタリング、効果判定 ・薬物療法に関する法律	小林（道）
4	循環器疾患をもつ患者の薬物療法	【Web-learning】（60分） ・循環器系の構造・機能の概要 ・心不全治療薬、高血圧治療薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬などの作用について 上記の内容に関する Post-test（30分）	塚本 石角
5	感染症をもつ患者の薬物療法	【講義】 ・微生物学の概要及び抗菌薬の種類 ・多剤耐性微生物に配慮した薬剤選択 ・薬物動態、薬物療法効果判定 ・事例を通じて、実際の抗菌薬療法について考察	塚本
6	呼吸器・アレルギー疾患をもつ患者の薬物療法	【Web-learning】（60分） ・呼吸器系の構造・機能の概要	塚本 石角

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・COPD、気管支喘息治療薬、鎮咳薬などの作用について 上記の内容に関する Post-test (30分)	
7) 8	糖尿病を持つ患者の薬物療法	【講義】 ・糖尿病の病態生理の概要 ・糖尿病治療ガイドラインの背景とそのエビデンス・事例を基に治療の実際を学習	高橋(伸)
9	消化器疾患をもつ患者の薬物療法	【Web-learning】(60分) ・消化器系の構造・機能の概要 ・胃炎、胃潰瘍、便秘などの治療薬の作用について 上記の内容に関する Post-test (30分)	守田
10	精神、神経疾患をもつ患者の薬物療法	【Web-learning】(60分) ・精神・神経系疾患の概要 ・認知症、抑うつ、不安、パーキンソン病などの治療薬の作用について 上記の内容に関する Post-test (30分)	塚本 石角
11	痛みをもつ患者の薬物療法	【講義】 ・痛みの機序についての概要 ・WHO 方式がん性疼痛治療法を含んだ疼痛のマネジメントについて 一般的な鎮痛薬 麻薬性鎮痛薬 ・事例を通じて、実際の痛みのマネジメントについて考察	守田
12	皮膚トラブルをもつ患者の薬物療法 目に症状を持つ患者の薬物療法	【Web-learning】(60分) ・皮膚の構造・機能の概要 ・皮膚外用薬の機序及び副作用について 上記の内容に関する Post-test (30分)	塚本 石角
13	救急医療・急性期の薬物療法	【Web-learning】(60分) ・主な救急時に用いる薬剤への生体反応 ・ショック、心停止時に用いる薬剤の機序及び副作用について 上記の内容に関する Post-test (30分)	塚本 石角
14) 15	演習	【演習】 既存の学習内容を基盤として、総合的に高度実践看護師としての薬物療法実施への役割を検討する 下記の論点を明確にして、事例を基にディスカッション ・年齢を考慮した薬物療法 ・患者の生活背景・QOL を考慮した薬物療法 ・アドヒアランスを向上させるための方策 ・患者教育、服薬指導・管理についてツールを用いて検討	守田 塚本

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験(100%)

【教科書】

随時提示する。

【参考書】

1) 當瀬規嗣著(2008). よくわかる薬理学の基本としくみ、秀和システム

2) Katzung & Trevor (2008) Pharmacology-Examination and Board Review, 8th ed., McGraw Hill

3) Golan, D., et al. (2010). ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学 清野祐日本語版監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル

4) 柳澤輝行ら訳 (2016). イラストレイテッド薬理学 原書6版8 (リップンコットシリーズ), 丸善出版

【学修の準備】

指定された事前学習課題に取り組んで授業に臨むこと。

【学修方法】

計 15 回の講義の内、対面講義は 9 回、Web-Learning は 6 回とする